

## (仮称) 3 市共同資源物処理施設整備費の補正予算について

### 1. 3 市共同資源化事業の経過及び現況

- (1) (仮称) 3 市共同資源物処理施設整備工事費を含む平成 28 年度予算が、小平・村山・大和衛生組合議会平成 28 年 2 月定例会(平成 28 年 2 月 17 日開会)において議決されました。
- (2) 整備工事の発注に当たっては性能発注方式<sup>注)</sup>を採用するため、発注に向けて(仮称) 3 市共同資源物処理施設整備工事提案図書作成条件書を作成し、これに基づいた提案図書(見積仕様書、見積書)をプラントメーカーから受領しました(平成 28 年 7 月 4 日)。受領した見積額が、当初予算と大きく乖離していたため、施設に求められる性能や機能を確保する視点に加え、見積額と予算額の乖離縮減を図る視点から、技術審査(メーカーヒアリング)を行い、仕様書を作成しました(平成 28 年 8 月～10 月)。  
注) 性能発注方式とは、廃棄物処理施設の整備工事では一般的な発注方式で、発注者が、満たすべき要件や性能水準を規定して、設計と施工を一括して発注する方式です。性能発注方式には、プラントメーカーのノウハウを生かした創意工夫を発揮した提案を受けられる利点があります。
- (3) 生活環境影響調査書の告示・縦覧(平成 28 年 7 月 15 日～8 月 15 日)を行い、寄せられた 8 件の意見に対する生活環境保全上の見解を取りまとめ、公表を行ないました。
- (4) 3 市共同資源物処理施設整備地域連絡協議会を毎月開催(平成 28 年 10 月現在 34 回開催)し、情報提供及び意見交換を行っています。

### 2. 増額補正を必要とするに至った理由

- (1) 土木建築関連  
東日本大震災の復興関連工事需要に加え、首都圏においては 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを前にしたマンション、オフィスビル、ホテル等の建設ラッシュが続いています。このような状況の下、建設事業者のプラント建設、特に制約事項の多いごみ処理施設に対する受注意欲は弱く、プラントメーカーが建設事業者を確保することが難しい状況となっています。このため、プラントメーカーから提出のあった土木建築工事の見積額は、人材確保、資材の値上りのリスクを見込んだものとなっており、当初の見込みと大きな乖離を生じたものです。  
以上のことから、高い環境性能を維持しつつ、建築費縮減のために、延床面積の縮小を図りました。しかし、ごみ処理施設の土木建築工事の単価の増加が著しく、当初予算額を大きく上回ることとなりました。
- (2) 環境対策関連  
VOC(揮発性有機化合物)、悪臭、騒音及び振動に対する環境性能をはじめとする施設の仕様水準(性能保証)が高度であることに加え、3 市共同資源物処理施設整備地域連絡協議会における要望事項等を実現するために建設費積算後に仕様を追加(遮へい壁・電光表示装置など)したことを、十分に当初予算に反映できていませんでした。

(3) 管理運営の効率化関連

施設稼働後の管理運営(メンテナンス)に係る人件費の縮減や、作業に対する効率化と安全対策を目的として、処理系列等の仕様を向上させたことから、機械配管電気工事経費が当初予算見積額から増となりました。

※詳細は「表1 補正額調整表」のとおりです。

表1 補正額調整表

単位：千円

	当初予算額	補正額	補正後予算額	増額した理由
土木建築工事	909,000	342,880	1,251,880	①土木建築業者のプラント建築に対する受注意欲の弱さによる土木建築工事の単価増の影響を想定できていなかったこと ②延床面積の縮小を図ったものの、土木建築工事の単価の増が著しいこと
機械配管電気工事	400,000	158,000	558,000	<b>【環境関連】</b> ①受入供給設備 ・プラットホーム出入口扉を気密性の高い方式としたことによる増 ②集じん・脱臭装置 ・VOC除去(脱臭)設備の高度化による増 ③説明用設備 ・説明用パネル等単価上昇による増 <b>【メンテナンス性能・安全対策関連】</b> ①容リプラ処理系列 ・分別能力の高い比重差選別機採用による増 ・コンベアの性能を安全上、作業環境上、メンテナンス上の向上を図ったことによる増 ②ペットボトル処理系列 ・キャップの取り外し作業と保管を可能にしたことによる増 ・コンベアの性能を安全上、作業環境上、メンテナンス上の向上を図ったことによる増 ③計装設備等 ・安全対策として、ガス検知器・火災検知器の性能向上による増 ・操作方式を遠隔自動操作方式に性能向上したことによる増 ④雑設備 ・冷却器、空気タンク、除湿機の追加による増

	当初予算額	補正額	補正後予算額	増額した理由
解体工事	30,000	0	30,000	当初予算から変更なし
諸経費	401,000	159,120	560,120	直接工事費が増となることに伴う増
計	<b>1,740,000</b>	<b>660,000</b>	<b>2,400,000</b>	工事価格
消費税	139,200	52,800	192,000	
総計	<b>1,879,200</b>	<b>712,800</b>	<b>2,592,000</b>	

### 3. 財源内訳

財源内訳については「表2 財源内訳」のとおりです。

表2 財源内訳

単位：千円

分類	当初予算			補正後の予算		
	交付対象	交付対象外	合計	交付対象	交付対象外	合計
工事価格	1,653,480	225,720	1,879,200	2,280,663	311,337	2,592,000
交付金	551,160	—	551,160	760,220	—	760,220
起債	992,000	145,500	1,137,500	1,368,300	233,400	1,601,700
一般財源	110,320	80,220	190,540	152,143	77,937	230,080

※循環型社会形成推進交付金交付率：1/3

起債充当率：交付対象 90% 交付対象外 75%

※起債の償還は、3年据え置き15年償還を予定しています。

### 4. 予算対応について

平成28年度予算は、歳出予算の補正は行わず、債務負担行為限度額につきまして次のように増額します。

(仮称) 3市共同資源物処理施設整備工事に係る債務負担行為限度額（平成29年度～30年度）につきましては、712,800千円増額し2,498,040千円とします。

また、(仮称) 3市共同資源物処理施設設計・施工監理業務委託に係る債務負担行為限度額（平成29年度～30年度）につきましても、(仮称) 3市共同資源物処理施設整備工事の5%と積算しているため、35,640千円増額し124,902千円とします。

## 5. 財政上の対応について

今回の補正によって、構成3市の分担金に影響する増額分を試算すると、以下のとおりとなります。

補正後の起債額	当初予算の起債額		
1,601,700千円	－ 1,137,500千円	=	464,200千円 ①
補正後の一般財源	当初予算の一般財源		
230,080千円	－ 190,540千円	=	39,540千円 ②
①と②を合計した金額		=	503,740千円 ③

③を平成27年度のごみの投入実績を基に、均等割（10%）及び投入割（90%）で試算すると、各市分担金への影響額は「表3 各市分担金への影響額」のとおりとなります。

表3 各市分担金への影響額（（仮称）3市共同資源物処理施設整備工事費のみ）

単位：千円

小平市	東大和市	武蔵村山市	合計
268,364	116,532	118,844	503,740

### 《参考》

上表に（仮称）3市共同資源物処理施設設計・施工監理業務委託費の増額分を含んだ場合

単位：千円

小平市	東大和市	武蔵村山市	合計
281,022	122,028	124,450	527,500

分担金の増額を抑制するため、財政調整基金の活用及び現有焼却施設の施設補修・改善工事計画の見直しを行ってまいります。

## 6. 今後の方針について

- (1) 建設費が当初予算額を上回ることとなりましたが、本施設は3市の将来にわたっての安定的な廃棄物処理行政を行う上で必要不可欠な施設であり、財政上のあらゆる手段を講じることにより構成市の分担金への影響が最小限となるよう努力し、議会のご理解をいただきながら、強い決意で事業を推進してまいります。
- (2) （仮称）不燃・粗大ごみ処理施設については、施設規模を中心とした仕様の見直しを行うことで、建設費の増加を抑えることにより、3市共同資源物処理事業全体の予算の増加抑制に努めます。
- (3) 小平・村山・大和衛生組合議会平成28年11月定例会（平成28年11月22日開会予定）で補正予算案を上程し、仮契約締結後、平成29年1月下旬以降に小平・村山・大和衛生組合議会臨時会を開催させていただき、（仮称）3市共同資源物処理施設整備工事の契約議案を上程する予定です。